令和元年度 第２回　長与町地域公共交通会議

会議要旨

１．日時
令和２年１月８日（水）　10:00～11:05

２．会場
長与町役場　４階全員協議会室

３．出席した委員

No.	団体・機関等	職名	氏名	備考
1	長与町役場	企画財政部長	久保平　敏弘	
2	長与町役場	建設産業部長	日名子　達也	
3	長崎自動車株式会社	自動車部次長兼運転課長	斉藤　衛	
4	長崎県交通局	営業部長	濵口　清	※代理 藤原氏出席
5	長崎県バス協会	専務理事	峯　比呂志	
6	有限会社　長与タクシー	代表取締役	福田　和幸	
7	みなとタクシー株式会社長与営業所 （あじさいタクシー）	営業所長	山口　隆司	
8	一般社団法人長崎市タクシー協会	専務理事	船家　和之	
9	長与町自治会長会	会長	水田　靖博	
10	長与町老人クラブ連合会	会長	内田 政信	
11	長与町民生委員児童委員協議会	元委員	樋口　隆則	
12	長与町身体障害者協議会	会長	相川 正敏	
13	国土交通省　九州運輸局　長崎支局	首席運輸企画専門官	大久保　栄作	
14	長与タクシー労働組合		堀　伸一郎	
15	長崎市役所	都市計画課長	谷口　仲二	※代理 金原氏出席
16	時津警察署	交通課長	金子　敏訓	
17	長崎県立大学	国際社会学部長	森田　均	

４．欠席した委員

No.	団体・機関等	職名	氏名	備考
1	あじさいタクシー労働組合 （自交総連　長崎地方連合会）	執行委員長	古澤　誠也	
2	長崎県	新幹線・総合交通対策課長	小川　雅純	

５．出席した事務局等

No.	団体・機関等	職名	氏名	備考
1	長与町役場	町長	吉田　慎一	途中退席

2	長与町役場	政策企画課長	荒木　隆	
3	長与町役場	政策企画課　課長補佐	福本　美也子	
4	長与町役場	政策企画課　係長	尾田　光洋	
5	長与町役場	政策企画課	川口　佳子	

6．出席した随行・傍聴者

№.	団体・機関等	職名	氏名	備考
1	長与タクシー		川良氏	随行
2	国土交通省　九州運輸局　長崎運輸支局	次長	原　数政	随行
3	長崎市役所	都市計画課	松尾氏	随行

7．議事次第

⑴ 開　会

⑵ 町長あいさつ

⑶ 新規就任委員のご紹介

⑷ 会長選任

⑸ 議題

①乗合タクシーの試験運行実施結果（実施結果と本運行を実施しないこと（試験運行終了）の報告）

②その他

⑹ 閉　会

8．配布資料

⑴ レジメ

⑵ 委員名簿

⑶ 資料１　和元年度第２回　長与町地域公共交通会議　議事内容

⑷ 参考資料①　長与町乗合タクシー試験運行　乗客数集計

⑸ 参考資料②　長与町乗合タクシー試験運行利用案内

9．議事要旨

⑴ 事務局より開会

⑵ 町長あいさつ

⑶ 新規就任委員のご紹介（事務局より）

⑷ 会長選任

⑸ 議題

議題①　乗合タクシーの試験運行実施結果について

事務局より資料に沿って運行状況について報告。

その後、質疑応答。

＜委員＞

車に乗らない高齢者など、特定の人しか利用しないのは仕方ない。困っている人を助けるという側面から、町が負担するのは仕方ないこと。帰りの便を現在の３便から２便に減便するなど、やめるのではなく継続を。地域の人は感謝している。

＜事務局＞
これまで運行形態等を変更しながら運行してきた。今回の試験運行で一定の需要が測れた。予約制では真に必要な方が利用され、利用者が固定化していることは否めない。固定化しているから本運行しないという訳ではなく、町の負担の度合いが一般のタクシーを運行する経費以上にかかる。このことが乗合タクシーの趣旨とは異なるため、乗合タクシーという方法での継続は困難かという判断。

＜委員＞
10 時～16 時のバスの本数が少なく住民が困っている地区で乗合タクシーを運行してほしい。例えば、緑が丘→三根→平木場といったバス路線以外を運行しては。また、本川内などに産地直売拠点を整備し、中心部とそれ以外をつなぐ交通を模索するなど、長期的なビジョンで考えて欲しい。
＜事務局＞
今回の試験は、バスの進入が困難でバス停から遠い斜面地で住宅が密集している地区を対象としたことからスタートしている。エリアを広げるとバス路線との競合がある。
アンケート結果によると、今は運転をしているため乗合タクシーを利用しないが、運転をやめれば乗りたいという方が８割であった。試験運行を実施した２地区は高齢化率が高く、今後高齢化が進むと需要が高まることが考えられるので、今後の高齢化の進展、免許返納の状況を注視しながら引き続き研究していきたい。

＜会長＞
乗合タクシーを運行した事業者として、意見等を伺いたい。
＜委員＞
特定の方の乗車がほとんどだった。免許返納してない方は利用していない。将来的に返納者が増えれば需要が高まるだろうが、今現在では経費的なことも考えると非常に厳しい。もう少し時間が必要かと感じる。

＜会長＞
長崎市の運行実績やご意見を伺いたい。
＜委員＞
長崎市は、10 人乗り乗車定員９名のワンボックスタイプの乗合タクシーを５地区、定時定路で運行している。利用料は 200 円。メーター料金に依らない事業委託としている。
利用者からは本当に喜ばれているため、補助率が高い地区も、運行をやめるのではなくサービスを継続しながら費用を削減できないか検討している。

＜事務局＞
現状において本運行を実施しようと考えた場合、町の負担が通常のタクシーよりも高くなるため、本来の趣旨から外れる。利用者負担金も距離から考えると 200 円が妥当であろう。需要が高まれば１人当たりの経費も下がってくること、アンケート結果も踏まえ、実施するのが今なのかという判断になる。

＜委員＞
他の地域では、メーター運賃、経費負担のどちらも成功事例がある。
佐世保市の豆バスは、運行開始から８年経っており 10 路線のうち２路線は黒字。その他にも大分市、福岡市などもうまくいっている。また、西海市は先行事例として八女市など全国を飛び回って成功事例を見られた。

住民の方が主体となり、住民と自治体と事業者が一体となって検討、チラシ配りやネーミング、我が町のバス・タクシーを作ろうとする動きが継続した利用につながっている。
成功事例をそのまま導入しても、人口規模や年齢層、周りの環境など違うため参考に。
今後のよりよい公共交通の実現について高齢化に向けて新ためて検討を。

＜事務局＞
本町でもいくつかの自治体の事例を参考に検討した。長与町の地域公共交通の現状としては JR の駅が４つあり、バス路線については路線密度の充実度を調査した結果では全国の標準より３倍充実している。主に長崎市中心部向けの通勤・通学があるためだろう。いわゆる交通空白地がほぼない。住宅密集したエリアはほぼカバーされている。そうした中で不便な地区はどこかという検討の中で、今回の設定はバス停から 500mには満たないが狭隘で勾配急斜面地、バスが進入しない地区についてフィーダーとして本線へ接続できないかということで検討した。
試験運行の段階から車両を購入することは困難で、タクシー事業者のセダンに乗客４人、乗りきれないときは追加便を出し、１便につき最大８名乗車で運行した。定時定路線運行時は予約の煩わしさがないためか一定の利用があったが、一方では半数以上の便が０人乗車であった。効率化して継続できないかという検討が予約制であった。

＜会長＞
五島市では買物代行とコミュニティ交通を一体化し、利用率が非常に高い。コミュニティ放送のようなコミュニティ交通がでてきてもよい。
今回の乗合タクシー事業単体での収支を考えているが、町事業全体で収支を考えては。
そして、いろんなことを試してほしい。地域間交流と交通を結び付けて考えたり、路線１か月のみの運行としたり、短期間での運行など多様性があってもよいのでは。

＜委員＞
確かに目標に達成していないが、できれば継続しながら検討してほしい。今後どんどん高齢者が増加する。また免許返納も推奨されている現状がある。
＜事務局＞
今回は試験運行であったことをご了解いただきたい。本運行であれば簡単にやめるという判断にはいかないが、試行錯誤しながら運行するという段階。さまざまなご意見をいただいているので、研究を続けてまいりたい。
免許返納については、免許保有時は自由な時間にドアツードアで利便性の高い移動ができた。既存の公共交通の利用となると、制限があるため不便だと思われるのだろう。バス、ＪＲ、タクシー等、地域の交通の利用促進を図っていく必要がある。

＜委員＞
コストについてだが、メーター料金で運行を行ったというのも、定時定路線運行時に引き受けてくださったタクシー事業者が趣旨に賛同してご協力いただいた。時間制運賃の 2,000 円についても、あくまでも試算によるもので、乗務員や車両の確保等が発生するため、これ以上の経費がかかると想定している。
これまで試行錯誤しながら運行してきた。便の削減などこれ以上の改善の余地がない。公共交通という観点から一定の利用が見込めるということで試験運行をしたが今回は難しかった。経費の削減方法がないこと、地域全体を俯瞰した上での判断ということをご理解いただきたい。

＜会長＞
今回は試験運行が終了という判断となったが、運行が全くないというわけではなく、今後地域

公共交通の充実についてみなさんと考えていこうという趣旨であろう。
みなさんの思いが長与の公共交通の中で活かせればよいと考える。

＜委員＞
タクシー事業者の方は、今回の判断はやむを得ないと考えているのか。
＜事務局＞
会議に先立ち、町内のタクシー事業者にご説明したが、ご理解いただいている。
＜委員＞
コストや利用実績を考えると、試験運行ということで町の事業に賛同し協力した。本運行となると、検討してとなるが協力する姿勢はある。

議題②　その他
議題なし。

＜会長＞
以上で本日の議事を終了する。

＜事務局＞
本町の地域公共交通の充実に向け幾度となく熱心なご議論を賜り感謝申し上げます。
会議で頂戴したご意見や住民アンケートの調査結果、事業者へのヒアリング等を踏まえダイヤや運行形態を変更しながら可能な限り多くの皆さまに利用いただけるよう努めてきたが、残念ながら今回は皆さまのご期待に応えることが叶わなかった。これからも高齢化は進展していく。しかるべき時期に改めて導入を試みるということもあるだろう。その際は今回獲得したさまざまなデータや経験が役に立つものだと考える。委員の皆様には引き続き専門的な観点から本町の地域公共交通網の改善に向けご支援・ご協力をお願いしたい。
最後に、今回の試験運行において安全に親切に、また細やかな気配りで車両の運行に携わってくださったタクシー事業者及び関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

⑹ 閉会

以上